

視察地

能登半島

久間寿紀

(目的) 地震、水害の状況対策視察

令和6年 9月24日(火)～9月26日(木)

1. 能登地震被災者支援センター
(羽咋市石野町)

対応者 黒梅事務局長

元日の大地震により、能登半島の志賀町から輪島市、珠洲市にかけての(外浦)は、4m～5m 隆起し、港には船がつけなくなり、逆に、能登町、穴水にかけては、海岸(内浦)は、地盤沈下して、津波に襲われ大きな被害を受けた。

・道路が寸断され、体育館などの避難所への救援物資も送れなかった。

・外浦地区を見ても、港はつかえず、漁師の生活は一変、家は住めず、仕事はなくなり、避難した場所も把握できず、おらず、町全体が復旧しても、帰って来る人もいないだろうと言うことだった。

復旧に何年かかるのか、わからないので、町全体の移転も考えなくては、いけない。

・国、県の対応にも不満の声が多い

仮設住宅も建設されていたが全く足りない状態であった。

そこに今度は水害に見まわれる。元々、山が低く、(1)幅もせまい地域に大量の雨がふり、氾濫した。収穫⁷期⁷近の田んぼは稲が倒れて収穫できない状態になっていた。

ハサ地域も、2ヶ所⁸で水害に見舞われ、米の作れ上陽⁹田も昨年¹⁰大雨の被害に見舞われた。

- ハサ地域は、木綿¹¹筋断層もあり、いつ地震に見舞われるか、わからないし、外にも台風、龍巻¹²の発生も懸念される。
- 山田地の避難所は耐震化¹³とされてない場所が多く、早期の準備が必要と思われた。
- 市も、大量の避難者が出た時の対応も、シミュレーション¹⁴しておくべきと感じていた。

これからも、ハサ市の防災に向けて、取り組んでいきたい。



